

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ④

豪華なひな飾りの代名詞と
 と言えば、大名家のものだと
 言える。春になると各地の博
 物館で公開され、目にする
 人も多いのでは。当館でも
 毎年、西条藩松平家のひな
 飾りを上巳（じょうし）の
 節句に合わせて展示公開し
 ている。

作られたひな人形のこと
 を指す。通子の有職雛が納
 められた木箱には「大政所
 様より／御拝領／御所雛一
 対」の貼紙がある。大政所
 とは摂政・関白の母親を指
 すことから、通子にとって
 は祖母から贈られたもので
 あることが分かる。

これは、9代藩主松平頼
 学（よりさと）の元に嫁い
 だ京都の公家一条忠良（た
 だよし）の娘通子（ゆきこ）
 のひな飾りで、有職雛（ゆ
 うそくびな）とひな道具の
 一部が伝わっている。
 有職雛は、公家の装束の
 具も作られたことが分か
 り、決まりごとを正しく考証し

西条藩松平家のひな飾り

祖母から孫へ 世代超え



西条藩松平家のひな飾り—江戸時代
 後期、県歴史文化博物館蔵

実は、ひな道具を収納す
 る木箱を調べてみると二つ
 の輪が交差した文様「輪違
 い」と「米印」という御印
 （おしるし）が記されてい
 た。御印とは、公家や大名
 家で物品に記して持ち主を
 見分けるために用いたもの
 で、2種類ということは、
 このひな飾りの持ち主が通
 子以外にもう一人いたこと
 になる。

さらに調査を進めると、
 松代藩真田家の史料の中に
 西条藩松平家ゆかりの品が
 あり、「米印」の御印がつ
 いていることが分かった。

西条藩ゆかりの人物を真田
 家を探すと、真田幸正に嫁
 いだ松平頼英の娘澄子（す
 みこ）が見つかった。通子
 にとって澄子は孫に当た
 る。おそらく澄子は、祖母
 からひな飾りの一部を譲り
 受けていたのだろう。

大名家のひな飾りは、大
 ぞろいでその豪華さに目を

奪われがちだが、西条藩の
 ひな飾りには祖母から孫娘
 へ、世代を超えて大切に受
 け継がれていった秘められ
 たストーリーがあったので
 ある。

（専門学芸員・宇都宮美紀）

〈2月2日掲載します〉

× ×

西条藩松平家のひな飾り
 は県歴史文化博物館（西
 予市）のテーマ展「おひな
 さま」で4月3日まで展示
 中。